

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営			共通	(一丁目ユニット)(二丁目ユニット)	
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時からの理念「明るく楽しくホッとできる暮らし～地域の中で支え合い～」を職員全員で共有して理念に沿っての実践に努めている	事務所内に地域密着型としての理念が掲示され、また月1回開催の職員会議においても理念について話がされ職員全体で共有実践がされています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や玄関テラスで外気浴したりしている時など、あいさつかわしたりと地域とのつながりを大切にしている	地域との関係も良好で、日頃からあいさつを交わしたり、畑で採れた野菜や果物の差し入れをもらったり、また地域行事へも参加するなど地域の一員として交流が図れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や近隣のの人に気軽に立ち寄ってもらい相談などにのれるように努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回近況報告や事故報告をして、取り組みについて意見交換している	市職員、包括、地域の方、家族等多数の参加があり、近況報告及び意見交換が行われています。そこで出た、家族からの要望が事業に反映された事案もあります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の席などで意見交換したり、連絡を取り合えるようにしている	運営推進会議に毎回出席があり、事業所の実情や取り組みについての報告及び意見交換を行うことで連携を深めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止に、全員で取り組んでいる。安全面重視して玄関は施錠しているが見守りできる範囲内で開放している	身体拘束に関する研修を行い、玄関の鍵も時間帯を決め解錠するなど身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに沿って研修して職員全員で虐待についての理解を深めて、防止に取り組んでいる		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度についても、研修等でもしっかりと理解して、利用者家族からの相談に応じていけるように取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際に、説明して納得いただいている。改訂事項等あればその都度説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時個々に要望など確認するようにしている	利用者の声には常に耳を傾け、利用者家族に対しても面会時に積極的に声をかけ、何でも話せる関係づくりがされています。出された意見や要望は職員会議等で検討し、ケアの実践に反映しています。	面会の少ない家族の意見も聞けるよう、お手紙や簡単なアンケートを実施してみてもいいでしょうか。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	職員会議やミーティングで意見交換の場を設けている。	毎月開催される職員会議や職員との個別面談で管理者は職員の意見に耳を傾けるよう努めています。事業所における業務や行事について職員主体で意見を出し合いそれが反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情等も考慮した上で代表者(理事長)に相談しながら就業環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修や外部研修への参加で資格取得個々のスキルアップをはかっているようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人系列の施設職員間などで意見交換したりしている		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		(一丁目ユニット)		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活ペースや不安感の解消に努めて、信頼関係をもてるようにしている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族とゆっくりと話しあえる機会を作りできるだけ家族の希望に沿えるように心がけている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の希望などを充分確認して対応するように心がけている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の方と協力して、共に支え合える関係でいられるようにしている	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見要望をその都度確認して信頼関係を深めていけるように努めている	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話でのやり取りや、馴染みの方へ絵手紙などを郵送したりの支援している	地域の利用者も多く、馴染みの関係が続くよう、昔行ったスーパーに買い物に出かけたり、お墓参りの要望に応えたり、また家族や友人等の訪問の受け入れをするなど馴染みの人や場との関係継続の支援がされています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブル回避に努めて、必要に応じて職員が間に入り交流できるように心がけている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設などに移動された場合や入院された場合など必要に応じて経過確認したりしている	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント(一丁目ユニット)				
23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や家族構成などを把握して本人、家族の希望する生活を継続できるようにしている	入居時に家族から聞き取った生活歴や趣味等の情報を得て、今までの暮らしに沿った生活が送れるよう努めています。また、日々の支援の中で表情やしぐさなどから推測し思いを汲み取っています。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	生活歴やこれまでのサービス利用時などの情報収集に努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何よりも、本人の生活ペースを把握して、できることできないことを見極めるようにしている	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の希望を確認した上で職員全員で話し合い介護計画を作成、状況に応じての介護計画を作成している	3ヶ月ごと及び本人の状態の変化に応じてモニタリングを実施しています。ケース会議には家族、医師、看護師、職員、理事長が参加し意見交換を行い介護計画に反映させています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護経過記録を確認しながら、必要に応じて特記記入してケース会議ミーティングなどで情報共有に努めている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化に合わせて柔軟な対応できるようにしている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティアサークルの方々に協力してもらっている	

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医への受診対応、法人嘱託医による定期往診による診察や急変時の対応等配慮している	法人嘱託医師による定期的な往診があるほか、利用者・家族の希望があればかかりつけ医への受診もできます。その際通院介助も行われ適切な医療が受けられるよう支援されています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	医療連携体制を整備して、看護師(兼務)による状態確認の上、適切な処置ができるように取り組んでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院が円滑にできるようにサマリーやフェイスシートで病院担当者と情報交換している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護実施している点を入居時にも説明している。状態に応じて重度化、終末期ケアの話し合いをして支援している	看取り介護も実施されています。入居時から状態の重度化に応じてその都度、本人や家族と話し合いを行い、主治医や看護師とも連携を密にチームで情報を共有しながら、利用者及び家族が安心できる支援が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルに基づいて研修、看護師に相談しながら、適切な対応ができるようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを整備、定期的に見直ししている。避難訓練、消防総合訓練もしながら、近隣地域への協力体制を依頼している	マニュアルを整備し、年2回消防訓練も実施しています。消防署の立会もあります。運営推進会議において、地域の消防団の方とも話われ地域との協力体制を依頼しています。法人内には食料や飲料水等の備蓄もされています。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (一丁目ユニット)				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライドや人格を尊重してプライバシー保護に配慮して、さりげない声かけなどで対応している	法人内の研修や会議で人権について話合わせ、一人ひとり人格を尊重した言葉かけや対応がされています。トイレも居室にありプライバシーに配慮された対応がされています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを受け止めて、理解尊重するようにしている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースにあわせての対応している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿って、その日の服装を決めることができるように配慮している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は毎日利用者と相談したりしながら決めて職員も一緒にテーブルで見守りしながら食事している。準備や後片付けなども一緒にしたりもしている	献立は利用者の意見を取り入れながらその日に決め、買い物にも一緒に行っています。利用者の方も配膳、調理等出来ることは行ってもらい、使い慣れた食器を使用しながら、職員と同じ食卓につき、楽しく食事がされています。外食等の食事を楽しむ行事の企画もあります。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	パターンシートを活用して食事量、水分摂取量を確認して個々に応じて必要量摂取できるようにしている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケアをしている	

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンの把握に努めてパターンに応じて誘導介助している	パターンシートの活用により排泄パターンを把握し、居室のトイレへ誘導行い排泄介助を行っています。出来る限りトイレでの排泄を大切に考え、対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理方法を工夫したり、水分補給強化に努めながら、便秘予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	通常入浴は午後から夕方としているができるだけ希望にそえるように、午前中の入浴もできるように柔軟な対応している	入浴は基本的に週3回ですが、希望に沿い毎日の入浴もできる体制をとられています。浴室の一つは、リフトがあり、入居者の状態に合わせて安心して、入浴ができる体制になっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせて適宜臥床休息したり、夜間も不安感解消に努めて、ゆっくりと眠れるように環境整備に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用している薬の一覧表を作成、副作用なども理解できるように、職員全員が把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクなど取り入れて楽しくすごせる時間作りをしたり、外気浴などで気分転換できるようにしている		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人及び家族の希望に沿えるように外出支援している。外食や喫茶店へ外出したりと、できるだけ外出して気分転換できるようにしている	一日一回は外へ出られるよう考えておられ、玄関先での外気浴や散歩、買い物に行かれています。花見や誕生日には外食を行い、また利用者の希望に添い、個別の外出も行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望あれば本人が所持することもできるようにと、柔軟な対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも手紙や電話のやり取りができるように対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じることができるよう飾り付けをしたりゆったりとくつろげる空間づくりをしている	木を基調にした建物は天井が高くリビングの大きな窓からは陽の光が差し込み明るい雰囲気になっています。リビングには畳の間やソファがあり、くつろげる空間になっています。玄関には入居者の作品や行事の写真が飾られ、居心地よく過ごせる空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関口付近にテーブルやソファを置いて気の合う利用者同士が交流したり、くつろげるように工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、本人が安心して暮らせるような居心地の良い居室になるように配慮している	持ち込みの制限はなく、入居者・家族と相談し使い慣れた馴染みの物を持ち込み、入居者が安心して居心地良く過ごせる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで廊下やトイレに手すりもあり安全に生活できるようにしている		

V アウトカム項目		共通 (一丁目ユニット)(二丁目ユニット)	
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない